

第 19 回佐久新校再編実施計画懇話会

日時：令和 6 年 3 月 28 日（木）
午後 6 時から 7 時 45 分
会場：長野県佐久合同庁舎講堂

<次 第>

1 開 会

2 挨拶

3 会議事項

(1) 第 18 回佐久新校再編実施計画懇話会まとめについて

(2) 前回出された意見に対する検討状況報告

- ・統合方法について
- ・通学の安全性、利便性向上について
- ・校地拡幅と施設整備基本計画について

(3) 佐久新校施設整備について

- ・ワークショップ報告
- ・現時点での配置計画について
- ・意見交換

(4) 来年度の予定について

4 その他

第 20 回佐久新校再編実施計画懇話会について

【日時】 4 月 23 日（火） 午後 6 時より

【会場】 現在調整中

5 閉 会

佐久新校再編実施計画懇話会 構成員名簿

	区分	氏名	所属等
1	自治体	畠山 啓二	佐久市 副市長
2		吉岡 道明	佐久市教育委員会 教育長
3		榑 祐史	南佐久郡町村教育委員会連絡協議会 会長
4	産業界	坂川 和志	佐久商工会議所 副会頭
5		渡辺 仁	佐久総合病院 統括院長
6		白鳥 敬日瑚	マイクロストーン株式会社 代表取締役社長
7	学識 経験者	堀内 ふき	佐久大学 学長
8	地域	廣末 恵子	社会医療法人恵仁会 医師
9		原 啓明	佐久地域振興局 局長
10	同窓会	吉岡 徹	野沢北高等学校同窓会 会長
11		長田 芳子	野沢南高等学校同窓会 会長
12	PTA	市川 俊一	野沢北高等学校PTA 会長
13		山越 あゆみ	野沢南高等学校PTA 会長
14		竹内 由貴	全佐久PTA連合会 副会長
15	学校 関係者	小林 新治	佐久中学校長会 会長
16		森泉 雄二	佐久小学校長会 会長
17	再編 対象校	嗟峨 優空	野沢北高等学校 生徒会長
18		林 広陽	野沢北高等学校 生徒会副会長
19		木内 あかり	野沢北高等学校 生徒会副会長
20		佐藤 佳乃	野沢南高等学校 生徒会長
21		川本 舞	野沢南高等学校 生徒会副会長
22		西澤 克弥	野沢南高等学校 生徒会副会長
23		柳沢 敬	野沢北高等学校 校長
24		山下 純一	野沢北高等学校 教諭
25		中村 信秋	野沢南高等学校 校長
26		臼田 賢治	野沢南高等学校 教諭

事務局

野沢北高等学校		野沢南高等学校		高校再編推進室	
野村 雅幸	(教頭)・事務局長	橋爪 俊彦	(教頭)・副事務局長	柳澤 弘蔵	主幹指導主事
山下 純一		臼田 賢治		有坂 清明	主任指導主事 (佐久新校担当)
阿藤 正彦		市川 尚智		井出 敦	主任指導主事 (佐久新校副担当)
神岡寿賀子		渡邊 武志			
清水 貴弘		山口 達之			

第18回 佐久新校再編実施計画懇話会まとめ(案)

日時	令和6年(2024年)2月8日(木) 18時00分~20時00分
場所	長野県佐久合同庁舎 講堂
出席(敬称略)	畠山啓二, 吉岡道明, 榊祐史, 坂川和志, 渡辺仁, 白鳥敬日瑚, 堀内ふき, 廣末恵子, 原啓明, 吉岡徹, 長田芳子, 市川俊一, 山越あゆみ, 竹内由貴, 嵯峨優空, 林広陽, 木内あかり, 佐藤佳乃, 河本舞, 西澤克弥, 柳沢敬, 山下純一, 中村信秋, 臼田賢治 以上24名
傍聴	22名
事務局	野沢北高校:野村教頭(事務局長),阿藤教諭,神岡教諭,清水教諭 野沢南高校:橋爪教頭(副事務局長),市川教諭,渡邊教諭,山口教諭 県教育委員会:宮澤室長,堀田企画幹,柳澤主幹指導主事,井出主任指導主事,有坂主任指導主事
当日資料	次第,第17回懇話会まとめ,佐久新校施設整備の今後の予定,定時制に係る諸事項,第1回教職員ワークショップ報告書,グループワークのテーマ

会議事項

- (1) 第17回佐久新校再編実施計画懇話会まとめ
- (2) 統合方法について
- (3) 佐久新校施設整備について
 - ・今後の予定
 - ・定時制に係る諸事項
 - ・報告事項(ワークショップ、学校視察)
 - ・前回意見交換に対する県教委の考え方
 - ・グループワーク

主な内容(要旨) →県教委回答

<統合方法について> 資料を基に説明

- 両校の特徴の違いがあるので、年次統合の方が良いのではないかな。
- 生徒としては入学した学校と卒業した学校の名前が同じ方が良いと感じるので、年次統合が良いと思う。(座長より) 県教委でメリット・デメリット・地域特性を考慮し、次回以降の懇話会で方針を示してほしい。

<佐久新校施設整備の今後の予定について> 資料を基に説明

- 2月1日に提案書を提出した際に、内堀教育長から本日も示されたこのスケジュールに縛られるものではないという言葉があったと思うが、それでよいか。
→スケジュールありき、結論ありきで進めるものではない。その時々で考え方を示しながらキャッチボールをして進めていきたい。

<定時制に係る諸事項について> 資料を基に説明

(質問・意見特になし)

<ワークショップ報告、視察報告> 資料と口頭で説明

(質問・意見特になし)

<前回の意見交換に対する県教委の考え方>

- ・現在の校地において「長野県スクールデザイン2020」に示すコンセプトの実現については不可能ではない。
 - ・一方で通学の利便性と安全性の確保については課題として認識している。
 - ・施設整備にあたっては厳しい県財政の状況を踏まえ、活用できる校舎については基本的に活用する。
 - ・西館については必要に応じて普通教室への改修をしたうえで引き続き活用したい。
- (座長より) この後のグループワークで忌憚のない意見を出してもらいたい。

<グループワーク> 各グループのまとめは別紙のとおり

(Aグループからの発表)

- ・施設、設備について…自習室、落ち着いて勉強できるスペース、トレーニングルーム、Wi-Fi環境の整備
- ・安全性確保について…道路拡張、車と人の動線を分けるための校地拡張

(Bグループからの発表)

- ・施設、設備について…生徒が集まれる場所、更衣室の確保、ひとりでのいたい人のためのスペース、夜間照明
- ・安全性確保について…校地を拡張して西側にもうひとつの入口をつくる、車の侵入制限、歩車分離

(Cグループからの発表)

- ・施設、整備について…個別で自習できる部屋の一方で仲間と会話しながら学習できる部屋(両面から検討が必要)、佐久の自然が感じられるようなガラス張りの場所、部室の充実
- ・安全性確保について…正門で危険を感じるので駐車場やロータリーの工夫・研究が必要

(Dグループからの発表)

- ・施設、設備について…探究のやりやすさ、地域と協働できるスペース、部室の充実、先生方の心身の健康を保てるスペース
- ・安全性確保について…ロータリーの拡張、駐車場の確保、国道141号から入ることのできる道路

【グループ A】

進行：宮澤室長 記録：橋爪教頭

<テーマ 1>

- ・一人で集中できる間仕切りや仲間と相談できるスペースがある自習室
- ・トレーニングルーム
- ・落ち着いて学習できる教室・環境
- ・強靱な Wi-Fi 環境や急速充電が可能な設備

<テーマ 2>

- ・南側道路の拡幅は可能か
- ・校地の拡張は自動車と歩行者の動線を分けることが目的
- ・駐車場に入る道が狭い
- ・今後の 30 年～40 年後のことを考えると校地拡張は必須

【グループ B】

進行：堀田企画幹 記録：野村教頭

<テーマ 1>

- ・休み時間や授業で集まれる場所が各所にあるといい（丸テーブルがあって気軽に集まれる場所など）
- ・探究学習を行う際、専門的な書籍が近くにありホワイトボードが各所に設置してある探究室
- ・視線が気にならない更衣室、生徒の安全確保のためのセキュリティー
- ・地域の人とかかわりを持てる交流スペース（地域連携協働室）
- ・大人と生徒の感じ方のずれが無いように
- ・多くの人と一緒にいることが苦手な生徒のための居場所や自習室、交流室
- ・ICT、デジタル機器が常時使用できる環境
- ・班活動がしっかりできる施設、照明設備

<テーマ 2>

- ・ロータリーを広げただけでは大型バスが入れないし、駐車場が狭いため校地を拡幅する必要がある
- ・歩車分離を図り生徒の送迎を安全に行えるスペースの確保
- ・西側の田んぼを駐車場にして入口をつくりロータリーにする
- ・南側の道は歩行者専用とする（市と交渉できないか）
- ・スクールバスを出して欲しい
- ・時間帯で車の侵入制限ができないか
- ・生徒の利用が多いグラウンド周辺の道が狭く視界が悪い
- ・校地を広げた上での基本設計は可能性がある。数年後に建て替えることは非効率
- ・南側の道は両方向からの車が正門に集中する構造であるため、西側の出入り口が必要
- ・避難所として機能できる環境づくりが必要

【グループ C】

進行：柳澤主幹指導主事 記録：倉坪教頭

<テーマ 1>

- ・ 放課後や自由時間に学べる場所、個別のスペース
- ・ 書類等が自由にコピーできる設備
- ・ オンライン対応できるモニターを多数（プロジェクターでは見にくい）
- ・ 談話可能で課題作成など友人と一緒に学べる場所、佐久の自然が感じられるガラス張りのスペース
- ・ カフェのように自由に話ができる居場所
- ・ 地域連携で地域の人が入りやすいつくり
- ・ 情報発信できる施設、地元をアピールできる場所
- ・ 広く使いやすい班室

<テーマ 2>

- ・ 正門付近やロータリーは車の出入りが多く危険を感じる
- ・ 歩道の整備が必要
- ・ 路上駐車をなくす工夫、送迎のための駐車場をつくる、入口と出口を分ける
- ・ 南側の道路を有効に活用するための方策
- ・ 野沢南の方が駐車環境は厳しく行事の際の駐車場問題は深刻

【グループ D】

進行：井出主任指導主事 記録：神岡先生

<テーマ 1>

- ・ 探究活動が校内外でできるように出入りしやすいつくり、中庭などの整備
- ・ 生徒の探究学習に地元企業等が協力しやすいスペース（外から入りやすい）
- ・ 自由に自学自習できるスペース、間仕切りのある空間が点在している
- ・ 職員が休憩できるスペース、心身ともに健康であるため職員のための環境整備
- ・ バスや保護者の迎えを待つための居場所（放課後遅くまでいられる）
- ・ 学びのスペースがフレックスに変えられる工夫
- ・ 班室の整備
- ・ 予算の関係があると思うが、一部を残さずに今後の 30 年後を考え大幅に一新すべき

<テーマ 2>

- ・ 自転車は東側、送迎の車が正門、歩いて正門から入る生徒はわずか、正門から入りたい気持ちがある
- ・ 自転車と自動車の動線の区分けが必要、そのために南側道路沿いにスペースを設け校舎全体を北側へ
- ・ 現在のクラス数でも安全性が確保できない状態、統合するとなるとスペースは必要
- ・ 西側のバイパスから直接入れるように敷地を拡幅すべき、入口を増やす
- ・ 防災の観点から、避難所の指定を考えると入口が複数あるとよい
- ・ （保護者としては）駐車場が広いとありがたい、車の時代に対応した環境づくりが必要
- ・ ゼロカーボンの観点から、送迎に頼らない通学方法を生徒自身が考えることも必要

校地拡幅の必要性についての検討状況

高校教育課
高校再編推進室

1. 背景

校地拡幅を求める意見を受けて検討するに至る

- ・ 佐久新校創設推進協議会の要望書（令和5年8月10日提出）
- ・ 「学校規模が大きくなる。現在の敷地では足りないのではないか」（第17回懇話会、プロポーザル提案書説明を受けての意見交換での構成員の発言）
- ・ 通学の安全性確保から校地拡幅を求める声多数（第18回懇話会グループワークより）

2. 校地拡幅の必要性について

- ・ 新たな学びを実現するための必要諸室の整備は現校地で実現可能
- ・ 野沢北校地で施設整備を進めるうえでの課題の抽出、整理
→ 周辺道路の交通渋滞、送迎の車の乗り入れによる混雑、車と歩行者の動線が同一
- ・ 上記課題の解決に向けた方策を多面的な視点から調査、検討
- ・ 上記課題が校地拡幅でしか解決できないと判断される場合
→ 校地拡幅の方針を決定、知事部局との協議を開始

3. 検討の期限

- ・ 校地拡幅の必要性についての検討は今後継続していく
（校地拡幅の必要性を判断するための主な検討・調査内容）
生徒・保護者の意見聴取、詳細な通学状況（方法）調査、道路状況調査、佐久市やバス事業者との協議
→ 判断材料を得るために一定の時間が必要
- ・ 一方、現時点での課題は学びの実現のための必要諸室の整備とは異なる視点からの検討が可能のため、施設整備はスケジュールどおり進めたい

施設整備のスケジュール（前回資料提示）

- ・ 基本計画策定（令和6年6月末）
- ・ 基本設計（開始予定は令和6年10月、完了予定は令和7年3月）
- ・ 実施設計（開始予定は令和7年4月、完了予定は令和8年3月）
- ・ 工事開始（開始予定は令和8年3月）
- ・ 新校開校（令和11年4月）



探究学習や地域連携に関わる方がWSに参加、地域の方も傍聴



地域と連携した探究学習について話し合うWSを実施

○参加者：

- ・探究学習や地域連携に関わるみなさん
- ・野沢北高校・野沢南高校同窓会のみなさん
- ・長野県教育委員会
- +設計JVチーム（ファシリテーター） 合計42名

2024年3月16日、佐久合同庁舎講堂にて、佐久新校の基本計画策定に向けた第2回目となるワークショップを開催いたしました。今回は、探究学習や地域連携に関わる方々にお集まりいただき、北高・南高の探究学習の内容や地域連携空間の先進事例を紹介し、その後4つのグループに分かれて新校での「地域と連携した探究学習」をテーマとしたグループディスカッションを実施しました。

年度末の忙しい時期にもかかわらず、約30名の方々にご参加いただき、活発な意見交換と情報共有がなされました。また、地域の方々にも会場でワークショップの様子をご覧いただきました。

●ワークショップの概要と目的

- 北高・南高の探究学習実施状況紹介：
 - ・各校の探究学習の目的や内容について、現状の課題やこれから取り組んでみたいことを知り、今後の関わり方を考える
- 地域連携の先進事例紹介：
 - ・新校での地域と連携した探究学習についてイメージを膨らませるために、どんな関わり方や在り方があるかを知る
- 地域と連携した探究学習についての意見交換：
 - ・佐久新校で地域と連携した学びを実現するために「探究学習」に着目し、佐久地域ならではのテーマや学校と地域の関わり方についてアイデアを出し合い、今後の佐久新校施設計画の検討に活かす

●当日の流れ

1. 開催の挨拶・計画案の概要説明

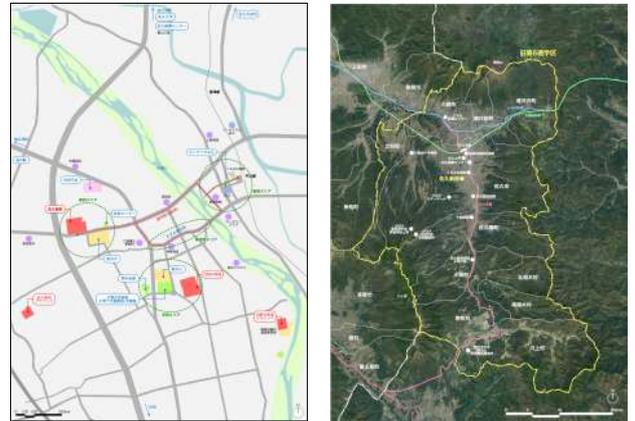
- ・長野県教育委員会より、NSDプロジェクトの概要や理念、佐久新校の概要を説明し、設計チームより、プロポーザル時の計画案、学校や県との打合せを経て現在検討している配置計画案について説明しました。
- ・ご覧いただいた地域の方からの意見を伺うため、アンケート（WEBと紙面）の記入方法について説明しました。



両校の担当教員より探究学習の紹介

2. 先進事例の紹介

- ・新校の施設整備における、建築計画アドバイザーである伊藤俊介先生（東京電機大学教授）より、学校施設における地域連携や地域共創に関する先進事例を紹介しました。
- ・「見せる」「居る」「関わる」をキーワードに、国内外の学校事例から、探究プロセスや成果の見せ方、生徒の居場所、地域と学校との接点のつくり方やそのための空間についてレクチャーしていただきました。



関連施設が記載された新校の周辺や旧第6通学区のマップを用意

3. 各校の探究学習実施状況の紹介

- ・野沢北高校は神岡先生、野沢南高校は渡邊先生より、各校で行われている探究学習の実施状況を紹介いただきました。
- ・北高では連携企業とのワークショップで地域課題や企業課題を見つけ探究に取り組むこと、南高では自由テーマのもと最大1年半かけて探究に取り組むことがわかりました。



活発な意見交換

4. グループディスカッションの実施

4-1. ディスカッションのテーマと方法

- ・参加者をA班～D班の4グループに分け、地域連携・探究学習に関する以下のテーマについてグループディスカッションを行いました。

- テーマ①：地域と連携した探究学習とは
- テーマ②：地域と連携した探究学習にふさわしい空間とは
- テーマ③：佐久らしい、佐久ならではの地域連携・探究学習とは

- ・各テーマについて、「今まで」と「これから」の視点から、現状の取り組みや課題、新校でのアイデアなどを話し合い、新校における地域連携・探究学習の在り方や空間について議論を深めました。



配置図でも説明しながら、テーマに沿って考える

4-2. 成果の発表・共有

- ・各グループで出された意見を取りまとめ、グループ代表者が発表し、参加者全員で意見を共有しました。グループごとに独自の意見やアイデアも多く発表され、互いに新たな気づきを得ることができました。
- ・会場からもアンケートを集め、「下足のまま校舎に入るとよい」などの意見が寄せられました。



WEBに寄せられた会場からの意見をスクリーンで共有

●グループディスカッションでの各班の意見（抜粋）

○A班

[地域と連携した探究学習とは]

- ・ 探究サポーターとして空き家問題をテーマとして扱った
- ・ 具体的な課題を地域から提示したらどうか

[地域と連携した探究学習にふさわしい空間とは]

- ・ 地域の人とのコミュニティの場所として開放したい
- ・ 校舎を作り込みすぎず、生徒みんなで使い方を考えるのがよいのではないか
- ・ 学校だけでなく連携企業にも探究の部屋があったらよい

[佐久らしい、佐久ならではの地域連携・探究学習とは]

- ・ 「宇宙」や「医療」などのテーマは生徒全員で取り組むのはどうか、地域課題を扱う授業も考えている
- ・ 南佐久のキーワードとして「水」資源がある。地域のテーマになるかも

○B班

[地域と連携した探究学習とは]

- ・ 地域連携をするために、地域の人や地域の人材を知る必要があるのでは
- ・ 地域の高度な技術や知的財産の活用

[地域と連携した探究学習にふさわしい空間とは]

- ・ 生徒の探究学習の成果物や制作風景が見られるとよい
- ・ 番組制作ができるスタジオ、動画編集室を設けるとよい

[佐久らしい、佐久ならではの地域連携・探究学習とは]

- ・ 地元企業と協働でイルミネーションの制作をしている
- ・ 佐久の自然や災害、地形の特色や歴史について
- ・ 中込のグリーンモールで実施している社会実験やワーキングスペースなど、地域で行われているさまざまな取り組みや場所、人との連携

○C班

[地域と連携した探究学習とは]

- ・ 地域の人材のデータベースを作ったら連携しやすい
- ・ 地域の人が学び直しできる機会になってもよい

[地域と連携した探究学習にふさわしい空間とは]

- ・ 地域連携協働室はリモートワークしている人の居場所になるとよい
- ・ 校内に入って良い人なのか判断するセキュリティが必要
- ・ PJルームは可動間仕切りを入れて、拡張性や汎用性のある空間にしたい

[佐久らしい、佐久ならではの地域連携・探究学習とは]

- ・ 佐久市発行の「佐久の先人」と連携して、地域を知る機会を作っている
- ・ 地域連携により佐久の豊かな自然を残していきたい

○D班

[地域と連携した探究学習とは]

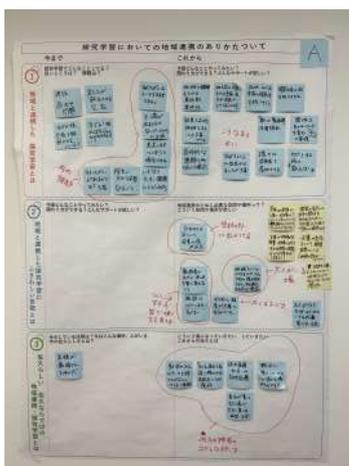
- ・ 現状、アポイントや場所の確保・調整が難しいので、もっと気軽に活動したい
- ・ 地域の人材の認知度が低いので参加しやすい工夫がほしい
- ・ 進級や進学しても、中期、長期的に共同研究がしたい

[地域と連携した探究学習にふさわしい空間とは]

- ・ 探究学習で学んだことを大学に繋げていくための進路指導もできる空間がほしい
- ・ 中学生が来たり、中学生に活動が見える空間がほしい

[佐久らしい、佐久ならではの地域連携・探究学習とは]

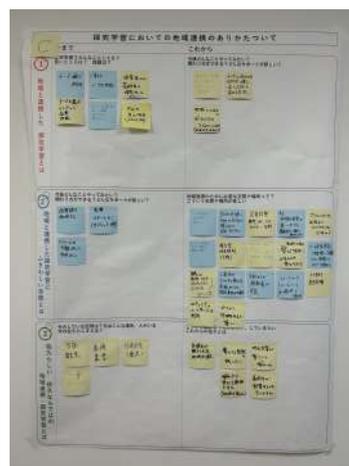
- ・ 佐久の特産物、歴史、料理を知る講師がいてほしい
- ・ 地域コーディネーター同士が連携できる、ネットワークを構築したい



A班



B班



C班



D班

●総評・まとめ（ファシリテーター：ガド建築設計事務所 新井晃より）

今回の地域ワークショップでは、年齢や職業、さまざまな立場の皆様と新校での探究学習、そのための空間の在り方、佐久らしい学びについて議論し、意見を共有しました。探究の学びにおいて地域の協力と連携は不可欠です。学びのソフト、ハードの両面から活発な意見交換がなされたことは、佐久新校に対する熱い思いや期待、希望の表れだと強く感じます。人にも場所にも恵まれた佐久地域でこそできる「学び」と「空間」とはどうあるべきか、参加された一人ひとりが改めて考え直す機会になったのではないのでしょうか。



両校から17名の生徒が参加し、新校について意見交換



参加者全員でアイデアやイメージを共有

○参加者：

- ・野沢北高校・野沢南高校の1,2年生のみなさん
- ・長野県教育委員会
- +設計JVチーム（ファシリテーター） 合計約26名

2024年3月21日、野沢北高校岳南会館にて、佐久新校の基本計画策定に向けたワークショップが開催されました。第3回目となる今回は、野沢北高校、野沢南高校の生徒を対象に、学校施設における学習空間・生活空間に関する先進事例のレクチャーを行い、そこから教室まわりやメディアセンター、地域連携ゾーンについてグループディスカッションを実施しました。

2年生だけでなく1年生にも参加いただき、和やかな雰囲気の中、学校や学年の垣根を越えて、率直で活発な意見交換がなされました。

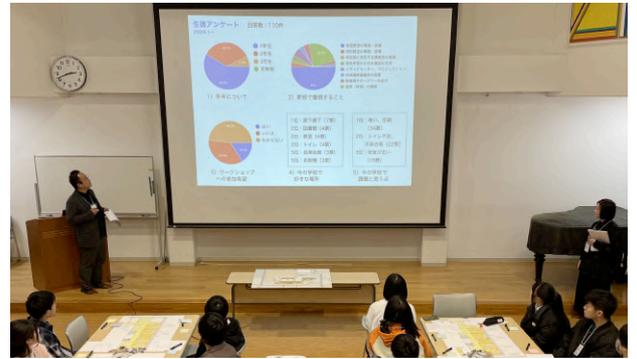
●ワークショップの概要と目的

- 学びの空間と生活の空間の先進事例紹介：
 - ・ 先進事例から、新校での学び・生活の在り方、卒業後の新校との関わり方についてイメージを膨らませてもらう
- 普通教室やメディアセンターの学び・生活の場としての在り方についての意見交換：
 - ・ 両校の在校生として、新校の学びの場・生活の場について求める環境や空間の在り方、課題について、アイデアや意見を出してもらうことで、今後の学校施設計画の検討に活かす

●当日の流れ

1. 開催の挨拶・計画案の概要説明

- 長野県教育委員会より開催の挨拶をしたのち、設計チームより、佐久新校についてプロポーザル時の計画案を紹介しました。加えて、新校の整備スケジュールや、卒業後の新校との関わり方の可能性について説明しました。



生徒アンケートを集計し、グラフ化して紹介

2. アンケート結果の紹介

- 今年1月頃に両校の生徒を対象に実施した、学校施設に関するアンケートの集計結果を紹介しました。
- 「新校で期待するもの」としては普通教室の環境・設備の充実を求める意見、「今の校舎で課題と思うこと」に対しては、校舎内の寒さ・空調、トイレの不足を課題として挙げる回答が多いという結果でした。



先進的な学校事例紹介を真剣に聞く様子

3. 先進事例の紹介

- 設計チームより、学校施設における学習空間・生活空間に関する先進事例を紹介しました。
- 国内外の学校事例から、フレキシブルで多機能な教室、教室まわりの生徒の居場所となる空間、デジタル等も活用しながら、生徒が自由に学びを深めていける空間や仕組みについてレクチャーしました。



最初に自己紹介をして親睦を深めました

4. グループディスカッションの実施

4-1. ディスカッションのテーマと方法

『新校の学び・生活について考える』

- 参加者を3つのグループに分け、以下のテーマについて各グループでディスカッションを行いました。

テーマ①：「普通教室・ロッカーワークラウンジ」

テーマ②：「メディアセンター・カフェ・地域連携ゾーン」

- 上記テーマで対象となる場所について、授業や探究学習、自習等を行う「学び」の環境としての観点、また休み時間や放課後を過ごす「生活」の環境としての観点から、「こういう空間がほしい」「こういう設備がほしい」「ここが気になる」などのアイデアや意見を出し合って議論を深めました。



学校や学年の垣根を越えて自由な意見交換

4-2. 成果の発表・共有

- グループごとに発表者を選出し、出された意見を取りまとめて発表してもらい、参加者全員で意見の共有を行いました。

- 現在の校舎に対する課題意識から、お昼ごはんを食べる場所や探究学習、自習を行う場所の充実だけでなく、交通や防災、バリアフリーなどの様々な視点からアイデアや意見が出されました。



両校で協力しながら各グループの意見を発表



発表に向け、出し合ったアイデアをみんなでまとめる

●グループディスカッションでの各班の意見（抜粋）

○Aグループ

[普通教室まわり]

- ・ロッカーワークラウンジは探究のグループワークを行う場所としても使えそう
- ・教室の近くでお湯が出るところがあると、お昼ごはんのときに便利
- ・車椅子の生徒もいるので、バリアフリーとしてエレベーターや多目的トイレなどを設置してほしい

[メディアセンターまわり]

- ・閉じた室ではなく、天井が高く、明るくオープンな図書室になれば利用者も増えると思う
- ・行けば確実に静かに自習ができる場所がほしい
- ・オンライン会議ができる場所を増やしてほしい
- ・カフェテリアがあると集まってお昼ごはんが食べられてよい

○Bグループ

[普通教室まわり]

- ・全体的に教室を広くしてほしい
- ・廊下がうるさいと授業中に迷惑なので、教室の扉は防音対策をしてほしい
- ・先生を見つけやすく、呼びにいきやすいように大職員室にしてほしい

[メディアセンターまわり]

- ・友達とわいわいできる場所とひとりで静かに自習ができる場所がそれぞれほしい
- ・カフェに売店を設置してほしい
- ・空き時間や班活などでも使用できるので、中庭（探究のひろば）があるとよい
- ・バスやレンタサイクルなど、駅から高校の移動手段がほしい

○Cグループ

[普通教室まわり]

- ・仮眠やリラックスができるスペースがほしい
- ・場所ごとに自習スペースの性格を変えてはどうか
- ・教室内の様子が少し見えるようになると入りやすい
- ・大職員室以外にも先生に相談できるスペースがほしい

[メディアセンターまわり]

- ・無人コンビニで経営など、金銭感覚が学べるのはよい
- ・専門性のある授業や教室がほしい
- ・卒業した後も先生に会いに来やすいようにしてほしい
- ・北高らしさ、南高らしさを残してほしい、つくってほしい

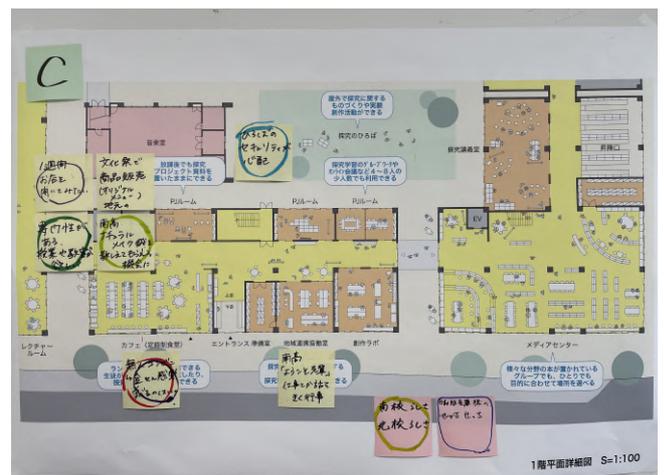
○各グループの成果品（一部）：



メディアセンターまわりについて（Aグループ）



普通教室まわりについて（Bグループ）



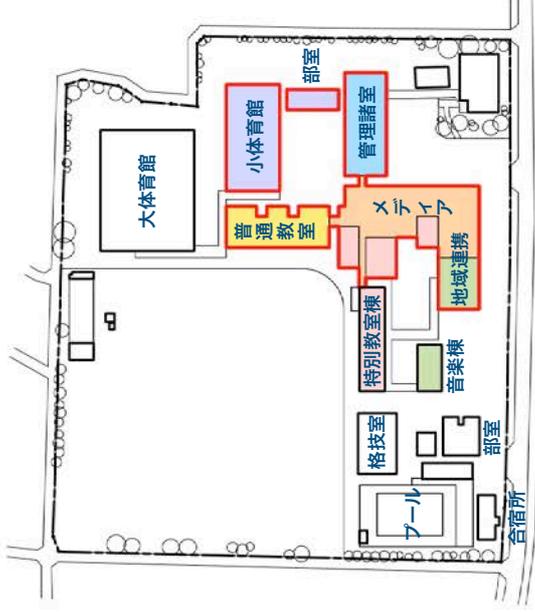
メディアセンターまわりについて（Cグループ）

●総評・まとめ（ファシリテーター：SALHAUS 品田礼希より）

野沢北高校、野沢南高校の生徒たちが高校生活を過ごす中で今感じていること、佐久新校への希望や不安など、学校や学年を越えて率直に意見を交わす様子が印象的でした。在校生の皆さんから直接意見やアイデアが聞けたことは、設計チームにとっても貴重な機会になりました。新校が開校するときには、今在学中の高校生の皆さんは大学生や社会人になります。ワークショップを通じて、新校を「母校」と思ってもらえるように学校づくりに参加していただき、卒業後も新しくなった学校と関わるきっかけになればと思っています。来年度以降も様々なワークショップを企画予定です。ぜひ、友達を誘ってご参加ください。

配置計画検討案

【B案】校舎4階建案
(駐車スペース優先案)

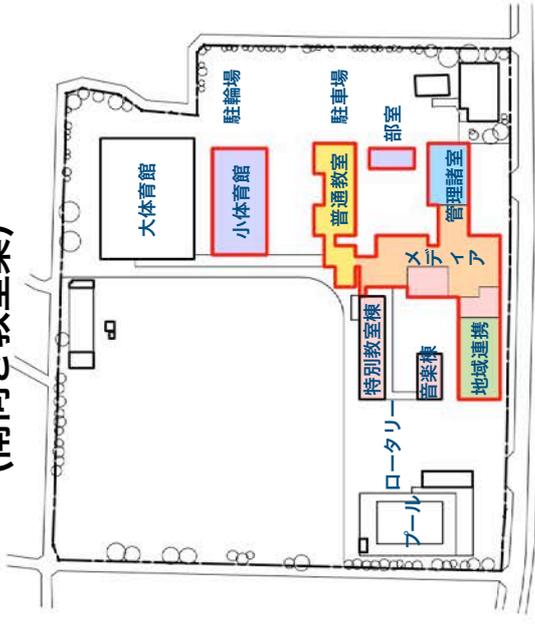


【A案】校舎東側配置案



【C案】校舎西側配置案

【D案】西側ロータリー設置案
(西向き教室案)



【E案】西側ロータリー設置案
(南向き教室案)

- 管理
- 特別教室
- 図書・メディア等
- 普通教室
- 地域連携
- 体育施設・部室

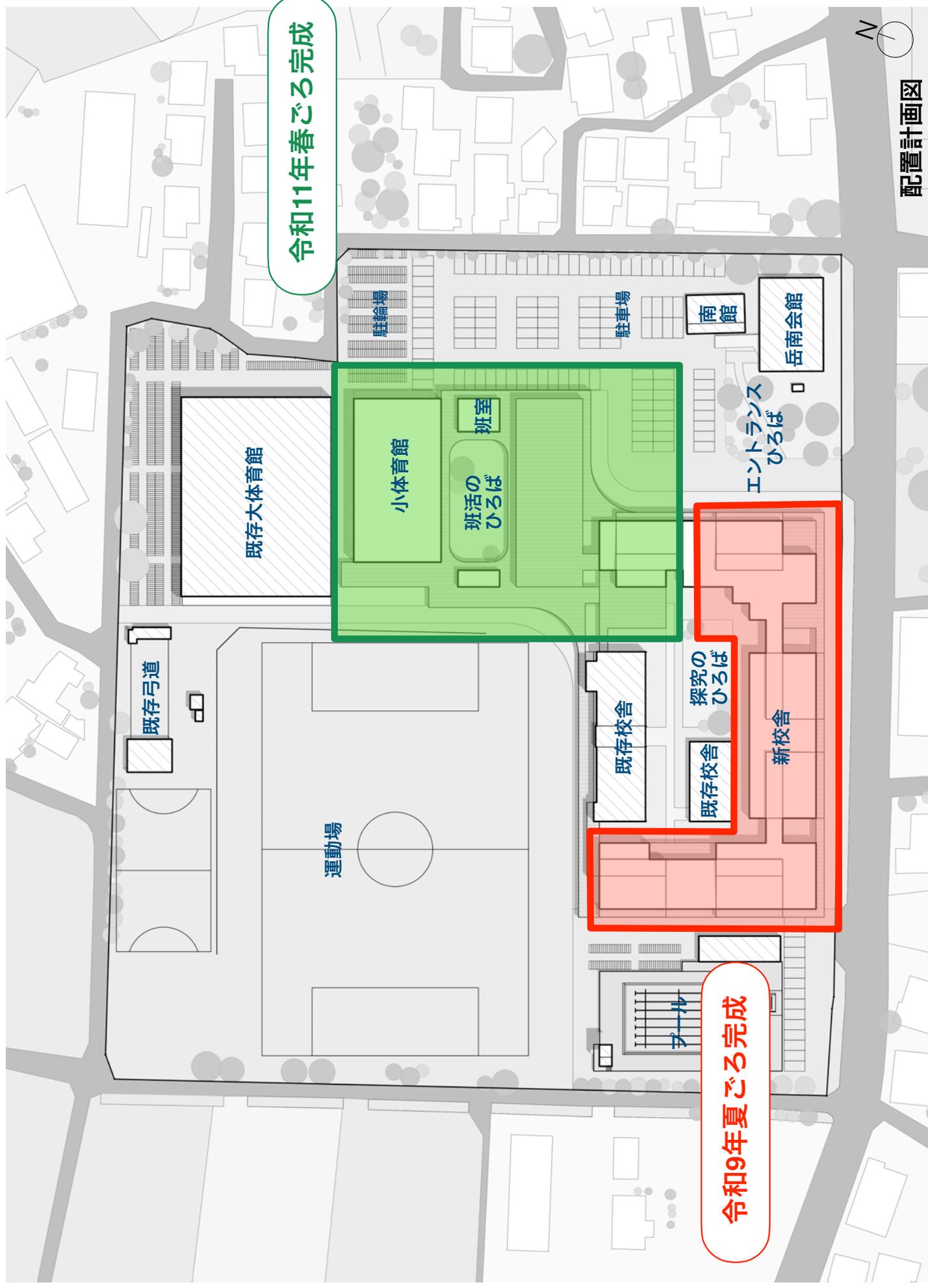
主な比較表

既存校舎との関係	△	既存特別教室棟や音楽棟と新築棟の関わりが中途半端で、道路に対する構え方も違和感がある	○	既存特別教室棟や音楽棟と新築棟の取り合いが良く、既存の活用に違和感がない
駐車場	△	西側建物群を撤去しなければ、駐車台数が少ない	△	西側にロータリーが設置可能だが、その分駐車台数が不足する
建替計画	×	フェーズ1で作れる面積が少なく、仮校舎の必要面積が大きくなる	○	フェーズ1で作れる面積が多いが、普通教室の一部を仮校舎に移す必要がある

配置計画：C案を有力案として検討中



建替え計画：段階的な建替えにより野沢北高校の学習環境を維持

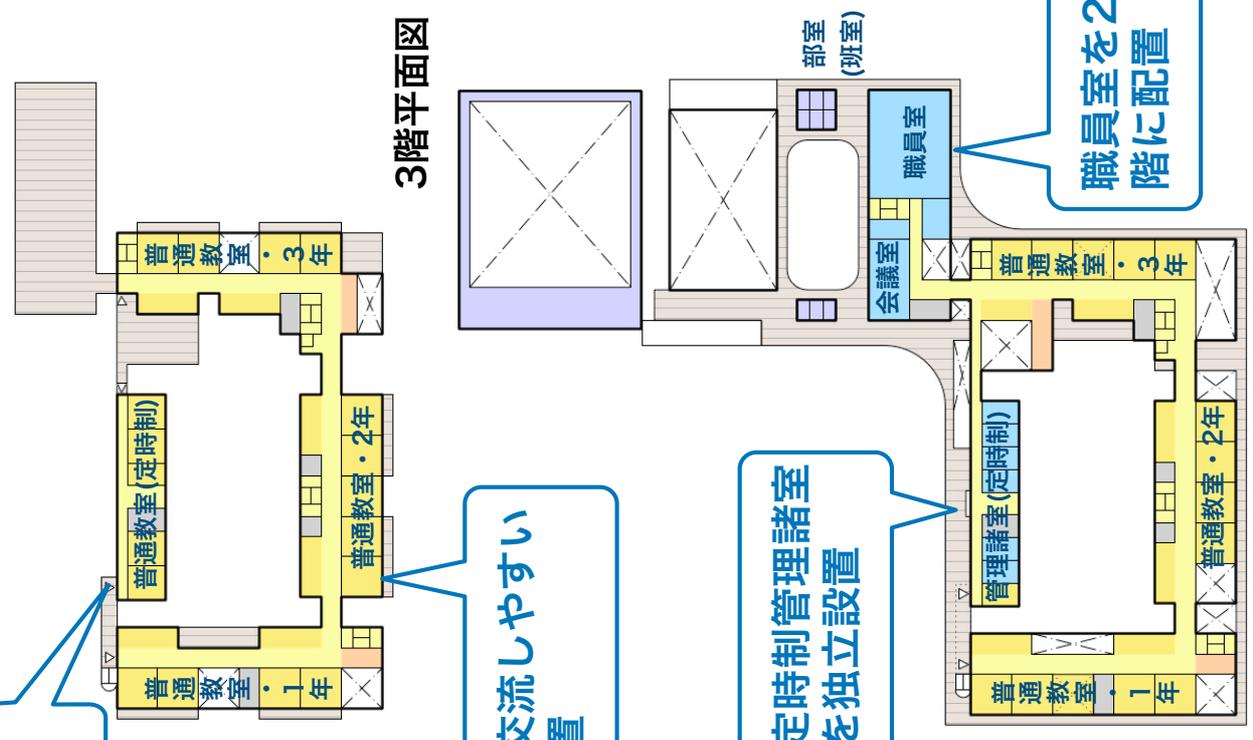
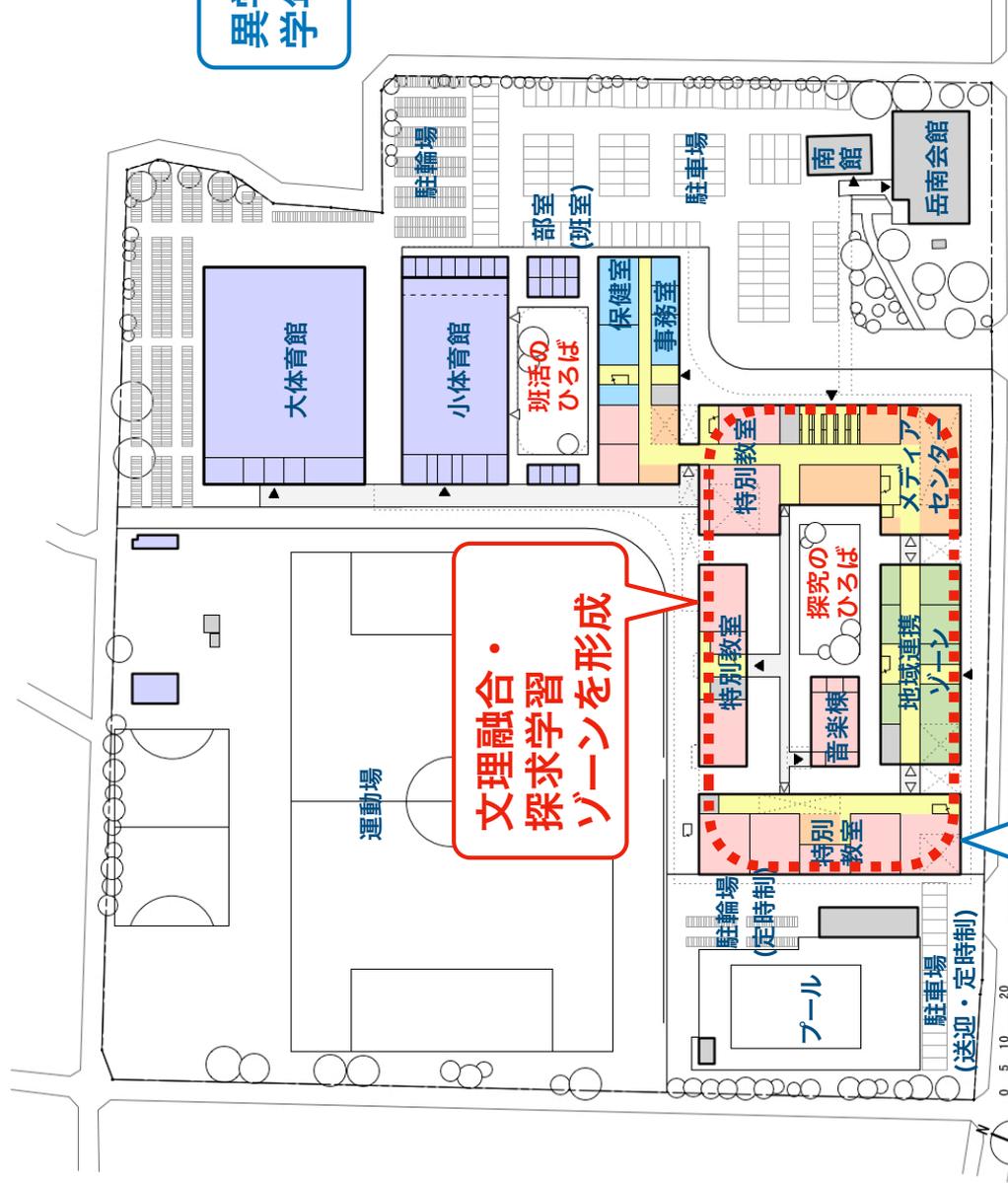


平面計画：C5案を有力案として検討中

凡例

- 特別教室
- 図書・メディア
- 普通教室
- 管理
- 地域連携
- 体育施設・部室
- 廊下
- WC・倉庫等

定時制普通教室を全日制
普通教室エリアから分離



3階平面図

2階平面図

1階平面図

0 5 10 20

令和6年度佐久新校再編実施計画懇話会の予定

高校再編推進室

1. 主たる意見交換のテーマ

○施設整備に関すること

- ・ 基本計画策定、基本設計と進めていく中で、引き続き意見交換を行う

○校名検討に関すること

- ・ 校名検討の手順について両校事務局内で検討、懇話会で意見交換
- ・ 校名の選考方法についての意見交換
- ・ 校名の選考

○その他

2. 懇話会の開催時期

○令和6年度中に5回程度の開催を予定

(4月、6月、9月から2月の間に2～3回程度)